

錯覚の子育て

—子供と正しく向き合うために—

育児に関する情報は世の中に満ちあふれています。

機能的で便利な育児用品も容易に入手できます。

ノウハウやグッズが豊富であるのに、

子育てに自信が持てない親が多いのはどうしてなのでしょう？

何かおかしい、不自然だと、現代の子育てに疑問を抱く人も多いのではないのでしょうか。

私たちは知らず知らずに、たくさんの「錯覚」を持っているのです。

子育てにおいても、「錯覚」がマイナスにはたらいっているケースが多々あります。

今回のフォーラムは「錯覚」をキーワードに、

健全な子育てについて考えると共に、

自分自身の生き方を深く見つめる場にしたいと思います。

平成26年9月6日(土)

13:30～16:30 (13:00開場)

かでな文化センター

嘉手納町嘉手納588 Tel.098-956-1112

[参加費] 1,000円(資料代)



プログラム

研究発表I 「親と子のコミュニケーションの錯覚」 松本 亜紀 (一般社団法人 倫理研究所専門研究員)

研究発表II 「親と子のゲーム理論」 内田 智士 (一般社団法人 倫理研究所研究員、国士舘大学非常勤講師)

トータルコーディネーター 丸山 敏秋 (一般社団法人 倫理研究所理事長)

*会場内での飲食はできません。あらかじめ昼食等をお済ませの上ご入場ください。また、録音・録画はご遠慮ください。

*お問い合わせ 親田多美子 (080-3205-7950) 仲本亮子 (070-5531-6659) まで

主催 一般社団法人 倫理研究所

後援 沖縄県教育委員会・沖縄県PTA連合会・沖縄県青少年育成県民会議

嘉手納町・嘉手納町教育委員会・嘉手納町PTA連合会





丸山 敏秋

まるやま としあき

一般社団法人倫理研究所理事長。1953年、東京都に生まれる。東京教育大学文学部哲学科卒業。筑波大学大学院哲学・思想研究科修了。文学博士。日本家庭教育学会副会長、人体科学会副会長。著書に『道徳力』（風雲舎）『最高の自分を生きる』（致知出版社）『いのちとつながる喜び』（講談社）『美しき日本の家庭教育』（致知出版社）『純粹倫理と科学』『母性とたましい』『丸山敏雄と日本』（以上、倫理研究所）『家庭のちから』（新世書房）他多数ある。



内田 智士

うちだ さとし

一般社団法人倫理研究所研究員。国士舘大学非常勤講師。1977年、熊本県に生まれる。国士舘大学工学研究科電気工学専攻修了後、DAAD 奨学生としてドイツ・ダルムシュタット工科大学物理学博士課程へ留学。ドイツ学術振興会プロジェクト GRK340「生体における情報伝達」に参加し、生物物理学の分野で博士号を取得。2008年より2年間、ウィーン大学数理生物研究所において客員研究員として、道徳規範の進化に関する研究に携わる。フィジカル・レビュー誌や英国王立協会紀要などに著作が掲載されている。



松本 亜紀

まつもと あき

一般社団法人倫理研究所専門研究員。1975年、宮崎県に生まれる。琉球大学法文学部人文学科卒業。同大学院人文社会科学研究科修了。修士号（歴史学）取得後、沖縄県浦添市、宜野湾市の教育委員会で歴史・民俗調査に従事。現在、津田塾大学大学院国際関係学研究科後期博士課程在学中。近代化過程における「誕生／出産」と「死」の場の変化が、生命観や性に対する認識、家族・人間関係にもたらした影響に関心を寄せている。共著に『赤ちゃんにおむつはいらぬー失われた育児技法を求めて』（勁草書房）、『性教育学』（朝倉書店）がある。

